

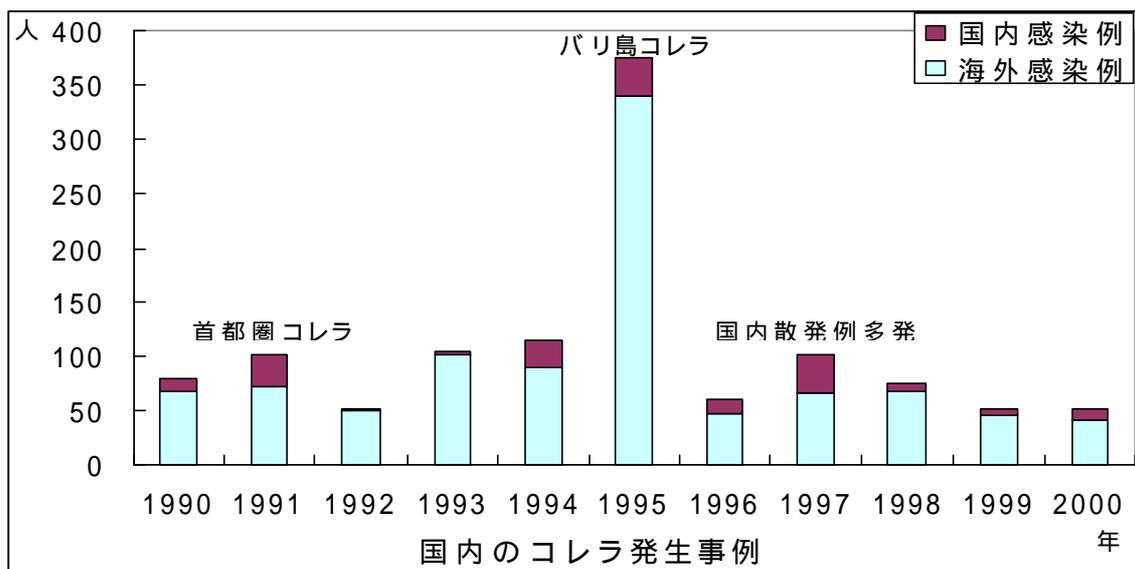
コレラの疫学

コレラは古くからガンジス河デルタ地域を中心としたベンガル地域の風土病として存在しており、現在までに7回の世界的流行が記録されています。

1817年の第一次世界流行から1923年に終焉した第6次世界流行までは、アジア型（クラシカル型）コレラ菌が原因菌でした。

しかし1961年にインドネシアのセレベス島に端を発した第7次世界流行はエルトール型コレラ菌が原因菌であり、現在も世界中で猛威をふるっています。

我が国でも現在の第7次世界流行の事例として、1977年の和歌山県有田市のコレラ汚染地からの帰国者が発端となったコレラ流行、1978年の東京池之端の結婚式場での輸入ロブスターを原因食と推定する集団事例、最近では1991年の首都圏コレラ事例、1995年のバリ島への観光ツアー帰国者の間にコレラ患者が大発生（患者数296名）した事例があります。



我が国の患者発生報告の大部分は、コレラ汚染国への旅行者やコレラ菌に汚染された飲食物により感染したものが、最近では海外渡航歴のないコレラ患者の発生割合が増加しています。

2002年7月下旬から8月にかけて、埼玉県をはじめ首都圏において海外渡航歴のないコレラ患者（*Vibrio cholerae* O1 エルトール稲葉型）が散発的に発生しました。各事例の関連、感染源及び感染経路は特定できておりませんが今後注意が必要と思われます。